

# 1 市町名 松伏町

## 2 課題をもとにした仮説

- ・授業計画作成の工夫改善を行い「振り返り」に力を入れることで、「何を学ぶか」を意識した授業が展開され、児童生徒が主体的に学ぶことができ、学力向上を図ることができるであろう。
- ・コバトン問題集・復習シートを活用し、児童生徒の良さを認めることで、自己の良さに気づき、非認知能力を伸ばすことができるであろう。

## 3 効果的な取組の例

### (1) 市町教育委員会における主な取組例

#### ①具体的な取組例

#### ○埼玉県及び全国学力・学習状況調査のデータを活用した授業改善

- ・「松伏町学力向上推進協議会」の充実

各種学力調査結果分析に基づく取組をまとめた「授業改善推進状況報告シート」を共有した。町内の優れた実践について共有することで、各校における授業改善の一層の推進を図った。



【授業改善推進状況報告シート】

- ・埼玉県学力・学習状況調査結果の帳票の分析力を高める研修会の実施

義務教育指導課の「『埼玉県学力・学習状況調査』の活用方法等の説明会」を町の学力向上推進委員会で実施し、各種帳票の効果的な活用方法や結果分析の方法について町内全小中学校で共通理解を図った。

- ・「コバトンのびのびシート」の活用推進

「コバトンのびのびシート」を活用して情報共有を図り、ティーム・ティーチングや少人数指導、習熟度別学習等において、個に応じたきめ細かな指導を展開している。こうした中、ティーム・ティーチングの充実が一層図られるように、T1とT2の役割を「松伏授業プラン」(学習スタンダード)に沿って明確にした「T・Tマニュアル」を作成し、活用している。



【T・Tマニュアル】

#### ②取組の成果と課題

##### 【成果】

- ・「コバトンのびのびシート」を活用した実態把握及び情報共有が定着してきたことで、各校において、個に応じたきめ細かな指導の充実が図られてきた。

##### 【課題】

- ・重点校の取組をはじめ、各校における優れた実践を町全体へと広めていくための効果的な会議の持ち方や資料共有方法の工夫を図る必要がある。

## (2) 重点校における主な取組例

### ① 具体的な取組例

- ・学級経営を基盤とした、自己肯定感を高める取組。毎月のアンケートの実施。
- ・学習アンケートの実施。
- ・自分の考えを明確にもてる問題提示・発問（めあて、課題）の工夫。
- ・「松伏授業プラン」に基づいた授業改善。
- ・「5校は一つ松伏っ子（授業の約束）」の徹底。
- ・学力を伸ばした教員（のびのび先生）の取組の共有を図る「のびのび通信」の発行。
- ・研究授業後の授業学年における成果・課題レポートの作成。
- ・コバトンのびのびシートを活用した個に応じた指導の充実。



**① 導入**  
**松伏授業プランにのっとり導入は短く**

●問題、課題につながる場面の設定  
 写真提示、ビデオ、具体物の提示

○子供達からの気づきで問題をつくる  
 所要時間（5～7分）

**POINT: 問題作りでの声かけ**  
 →言葉かけ「どんなことが分かる？」  
 子供達が**主体的**に考えるための声かけをする

**のびのび通信**

のびのび先生第三弾  
 約 6歳 電子（元4年4組）  
 経歴歴の学力の伸び率

国語 2.6 > 年のクラス平均 国語 1.3

◎国語の学習目標は、  
 1. 文章の意味を理解すること。  
 2. 文章の構成を理解すること。  
 3. 文章の表現を理解すること。  
 4. 文章の表現を自分なりに表現すること。

◎国語の学習目標は、  
 1. 文章の意味を理解すること。  
 2. 文章の構成を理解すること。  
 3. 文章の表現を理解すること。  
 4. 文章の表現を自分なりに表現すること。

あえて導入で課題を書かずに、授業の最後に「今日の課題は得だったのか」を児童とともに考えてみるのも、思考の深まりに繋がります。

整理された板書も大切だが、児童の思考の流れに沿った板書づくりも大切

### ② 取組の成果と課題

#### 【成果】

- ・「コバトンのびのびシート」の活用により次年度への引継ぎがスムーズに行われ、個に応じた継続的な指導が可能となった。
- ・「コバトンのびのびシート」を通して教員間の情報共有を図り、効果的な指導や教材の準備を行った結果、授業力の向上を図ることが出来た。
- ・児童の自己肯定感の高揚を目指した学級経営を推進し、温かな人間関係の構築を図ることが、学力の向上にも効果が見られた。
- ・「“問い”の重視」による授業改善によって、授業に意欲的に取り組む姿勢が増し、「わかった、できた」という児童の声が多く聞かれるようになった。

#### 【課題】

- ・学力向上パワーアップ事業により、学力の伸びは認められたものの、数値を見ると県平均を下回っており、更なる授業力の向上を図っていく必要がある。
- ・「コバトンのびのびシート」の活用によって、対象児童の個別指導には一定の効果が見られたが、今後、より幅広く多くの児童の学力向上を目指すため、その活用方法について検討していく。
- ・松伏授業プランをベースに、児童の意欲や主体性を引き出し、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図るために、実績のある教員の取組を共有し、今後もチーム松伏として学びあいを深めていく。